

なごやぬいぐるみ病院@保育園活動報告書

文責 名古屋大学医学部 2年 角田翔太郎

概要

実施日時：平成 22 年 8 月 30 日 10 時～12 時

実施場所：こすもす保育園 愛知県名古屋市

対象：0～2 歳児 〇人 3 歳児 8 人 4,5 歳児 13 人

学生参加者：24 名（3 年 2 人、2 年 13 人、1 年 9 人）

当日の流れ

	0～2 歳児（園児〇人）	3 歳児（園児 8 人）
9:50～10:00	園児に対しあいさつ・自己紹介を行い、今日やることを説明	
10:00～10:10	大部屋で 0～3 歳児を対象に保健教育を行った。テーマは「夏に注意すること」で、10 分間で劇とそのまとめを行った。	
10:15～10:50	保健教育のみで、ぬいぐるみ病院は実施せず	ぬいぐるみ病院を実施 8 ブース作り、待合室はなし。早めに終わった園児は空き部屋がなかったため廊下で先生と一緒に待機

0～3 歳児はここまで。

以降は 4,5 歳児グループに実施する

	4,5 歳児グループ A(6 人)+先生 1 人	4,5 歳児グループ B(6 人)
11:00～11:20	ぬいぐるみの診察を行う 7 ブース作り、3 歳児のときと同様に行う。	
11:25～11:45	B と同様に保健教育を行った	A と同様にぬいぐるみの診察を行った

保健教育の内容

今回、以下のテーマについて保健教育を実施した。

夏に注意すること

<テーマを選んだ背景>

ミーティングで 3 グループに分けてブレインストーミングを行ったところ、どのグループでも熱中症など夏らしいものをやりたいという意見が多数だった。そこで、園児にもわかりやすいように夏に注意すべきことについて、特に「帽子」「水分補給」「疲れたら休む」

の3つを中心に保健教育を行うことにした。

<この健康教育を通してどの様になって欲しいか>

・保育園や帰って外で遊ぶときにちゃんと自分で熱中症にならないように気を付けられるようになって欲しい。また、暑いときどんな危険があるかを知ってほしい。

<方法>

・0~3歳児：劇

・4,5歳児：劇、クイズ

・劇の簡単なあらすじ

ひろき君は帽子を被らずに遊びに行く。しばらくあかねちゃんとボール遊びをしていると太陽が現れて太陽ビームによって気分が悪くなる。<<説明1>>

続いて、あかねちゃんは飲み物（ポカリ）を飲みに行くがひろき君は1人で何も飲まずに遊んでいる。そして、再び太陽ビームにより具合が悪くなる。<<説明2>>

疲れたので帰ろうとするが、誘われて遊んでしまいまた具合が悪くなる<<説明3>>

・クイズ

遊んでいるとき、帽子がじゃまならとっても良い（×）

水分を取るときは、水よりもポカリなどのほうが良い（○）

気分が悪くなったらすぐにまわりの人に知らせたほうが良い（○）

家の中にいれば、暑くて気分が悪くなることはない（×）

汗をたくさんかいたときは梅干しを食べると良い（○）

元気には、ごはんをたくさん食べたほうが良い（○）

からだの半分以上はみずでできている（×）

<その方法を選んだ理由>

春実施のときに劇をしたときに反応が良かったこともあり、動きがあり、大きく見せることのできる劇は園児の気を引きやすく、集中力がもたせことができると考えたため。また、クイズについては劇でやったことを定着させることと、楽しみながら知ってもらうことを目的にこの形式で行った。

総括

<工夫した点>

・保健教育

前回の反省で人数が多すぎるという意見があったため、今回は6人にした。その結果、保育園の先生へのアンケートでも前回より「ちょうどいい」という回答が増えた。

劇で、3つ一気に説明すると混乱するので、劇の途中に説明をいれるようにした。また、4~5歳児用の劇では太陽の衣装を頭の飾りに黒タイツという印象に残るものにした。実際にインパクトもあり、反応は良かったと思う。

クイズでの言葉の表現を園児にわかりやすいようにした。例えば、「スポーツドリン

ク」ではなく「ポカリ」などにした。また、体内の水分の問題では絵を使って説明し、ポカリは実物を用意するなど視覚的にした。

説明のときに帽子と飲み物(ポカリ)を園児に渡してもらうようにし、園児も劇に参加できるようにした。

・ぬいぐるみ病院

今回私たちは初めてぬいぐるみ病院で診察を行うため、全員が初心者であった。練習するために、予想できる主訴と対応する病気、その病気の説明、診察、処置の方法を話し合っまとめておいたものを作った。

カルテについて

「お家に帰ってすること」欄に日付を前もって記入しておいた。

フェイススケールを導入し、園児にとってわかりやすくした。

心当たり欄を導入し、園児が想定してきたことと医師の間にずれが生じのを防いだ。

<参加学生の反応>

みんな楽しんでできたように思う。準備でもみんながそれぞれ自分の役割を考えてやってくれてスムーズにいったように思える。実施後もそれぞれが反省点をしっかりと考えることができ、次回に生かせると思う。

<園児の反応（よい反応が得られた点について）>

こちらの呼びかけに対して応えてくれる子が多かった。保健教育では、3歳児でも劇の内容についてある程度わかってくれているようだった。4~5歳児のクイズを学生も座って行ったことにより対話型になり、たくさん発言してくれた。太陽のキャラクターはウケが良かった。

ぬいぐるみ病院でも、4~5歳のほとんどの園児は積極的にロールプレイに参加してくれて、とてもやりやすかった。

<園児の反応（よい反応が得られなかった、もしくは收拾がつかなくなった点）>

保健教育の劇の中のポカリ&帽子を渡してもらう場面で4~5歳児の片方のグループでは照れがあり、渡してくれる子がいなかった。園児たちの知識のレベルが予想よりも高く、クイズが簡単すぎるという声もあった。しかし、クイズの解説ではうまく伝わってないところもあり、解説をもっとしっかり考えたほうが良かった。少数ではあったが、小さい子では泣いてしまう子もいた。仕方ないことなので、少し謝ってそのまま進めるのが1番と先生はおっしゃっていた。

ぬいぐるみ病院でも、3歳児のグループは緊張してあまり話してくれない園児がちらほらいて、中には泣き出してしまった園児がいた。保育園の先生にフォローしてもらい

ながらなんとかやりきったが、大人二人に囲まれるのはやはりまだ怖いと感じるようだ。

<失敗した点>

予想されていたことではあったが、劇の内容について0~2歳児の子はあまりわかっていなかったようだった。保育園の先生は「大きな子と混じって一緒何かをする」という感覚が大切とおっしゃっていたのでそれでも良いかもしれないが、0~2歳児の子にも何らかのものを残せると良いと思った。

ぬいぐるみ病院は学生的人数が少し多かったようだ。部屋がすし詰め状態で窮屈だった。

<その他>

春、夏となごやでは続けて劇を行った。劇は動きが大きく見せられるというメリットがあるが、大人が前に立つため威圧感をあたえ、特に小さい子に対しては紙芝居や人形劇のほうがイメージしやすいということもある。対面よりも子供の隣に座ったほうが相いてに安心を与えると先生もおっしゃっていたので、特に今後小さい子を対象にした保健教育を作るときには慎重に考えたい。

改善点

<失敗した点を踏まえての改善点>

0~2歳児の子に対しては、「保健教育」という形にこだわらず別のアプローチをとっても良いかもしれない。また保育園でやっていることを取り入れたり、内容はわからなくても歌や踊りを使うことで楽しんでもらったりなどやはり年齢に合わせて一工夫必要だと思う。また、4,5歳の園児たちは「熱中症」という言葉もみんな知っており、4,5歳児用に関しては劇やクイズの内容をもう少し高度にして、解説を充実させたほうが良いと感じた。

また、待合室を作り、ローテーションで回すことで一度に部屋に入る人数を減らせれば良いなと思った。

<アンケート結果を踏まえての改善点>

水分補給などの内容はすでに保育園でも言われているという意見もあった。家や保育園ではできないようなテーマを探すことも大切だと思った。劇では場面展開で、劇と説明の区別が小さい子には少し難しいという意見があった。場面だけを切り取って簡単な言葉で同じことを何回も言ったほうが小さい子にはわかりやすい。また、1つ1つの症状に対するリアクションをもっとはっきり、具体的にしたほうが良かった。

カルテの字に対する意見が多かった。字の丁寧さや配列も子供の見本となるのでしっかりしたほうが良いという意見もあったので、今後気を付けていきたい。

もう少し高度なことをやってもよいと言われたので、次回以降写真や小道具を新たに作りチャレンジしていきたい。

以上